



尼崎市

就労的活動支援コーディネーターの取組

～高齢者生きがい就労事業からみた地域づくりを仕事にする新しい働き方～
～労働者協同組合から見た高齢者生きがい就労事業との親和性について～

尼崎市の紹介

兵庫県尼崎市

(R5.9.1現在)

45万人 (458,102人)

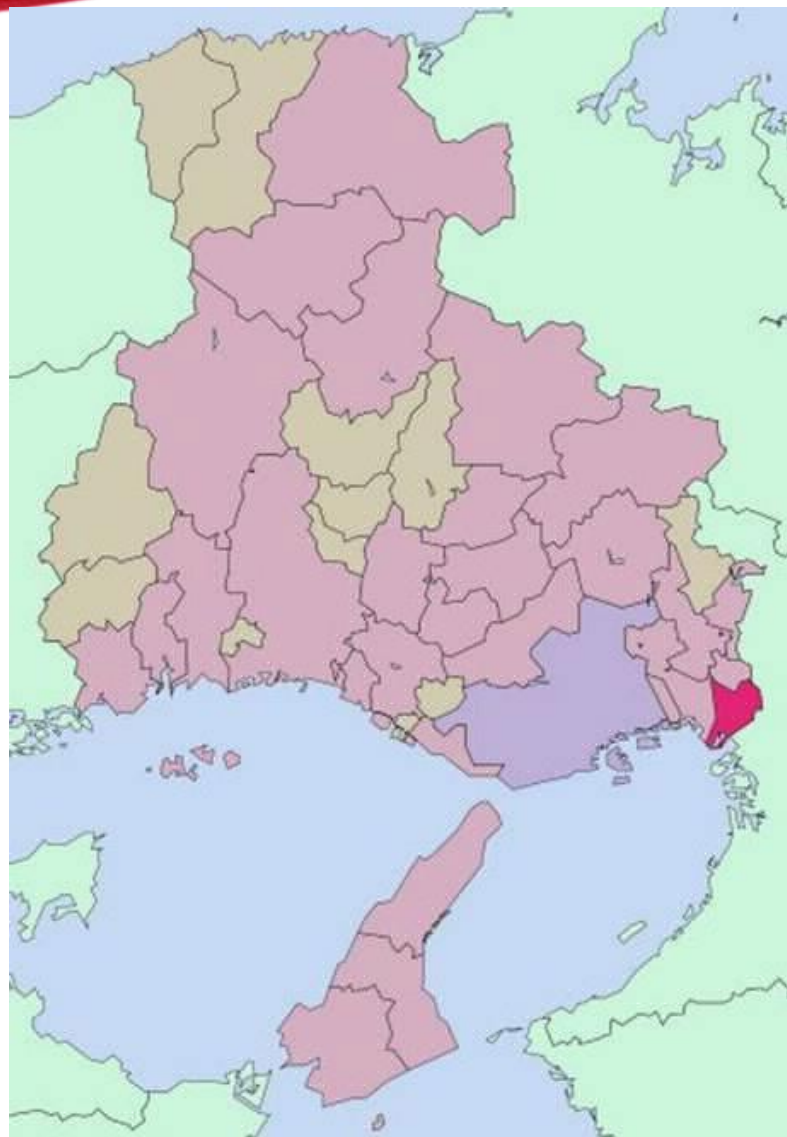
50km² (50.71km²)

人口 : 兵庫県 4位 (①神戸 ②姫路 ③西宮)

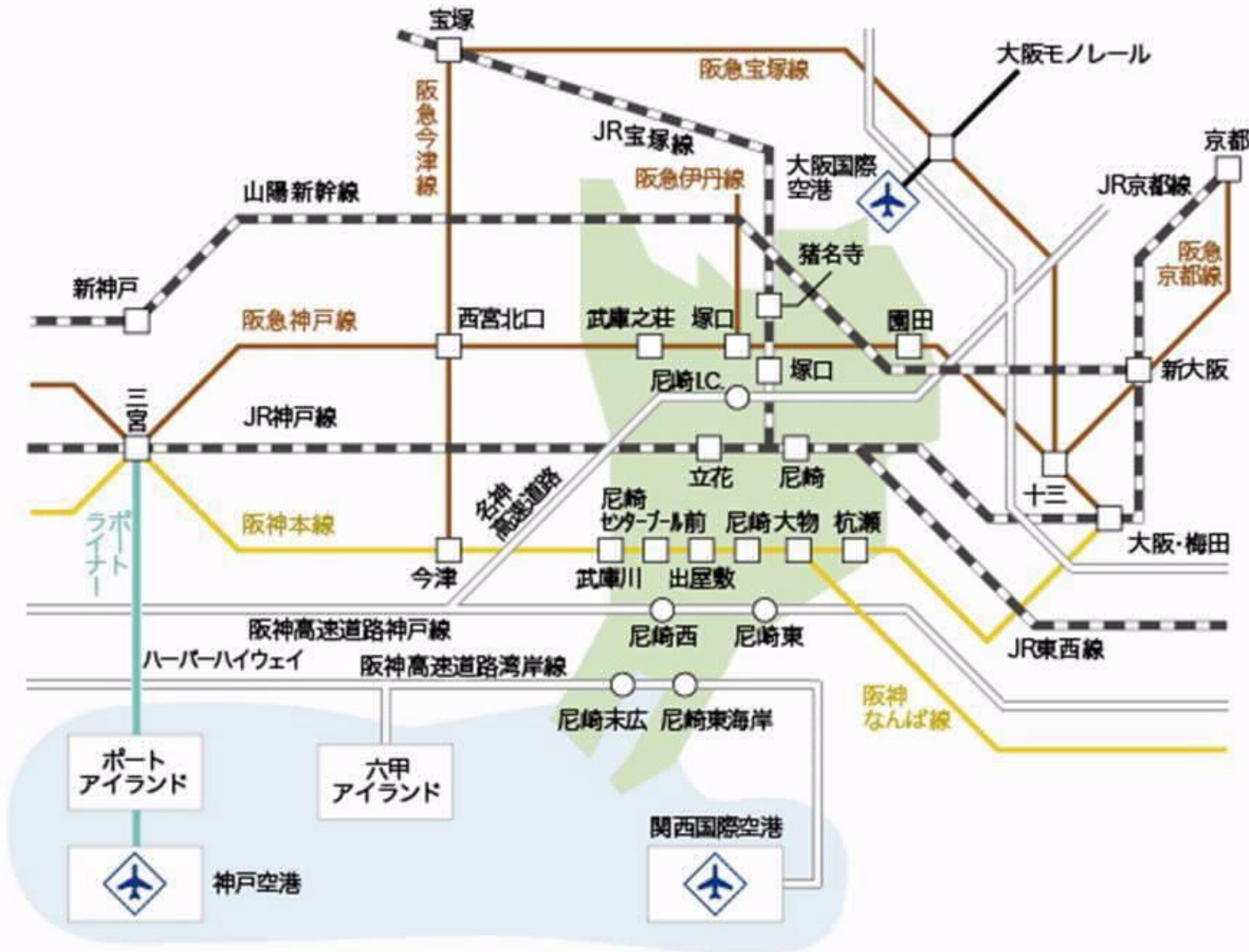
面積 : 兵庫県33位 (①豊岡 ②宍粟 ③神戸)

人口密度 : 兵庫県 1位 (①尼崎 ②伊丹 ③明石)

※兵庫県内 41自治体中



尼崎市の特徴



阪急、JR、阪神の
駅が市内に13か所

大阪まで5分

神戸まで16分

南北の交通はバス

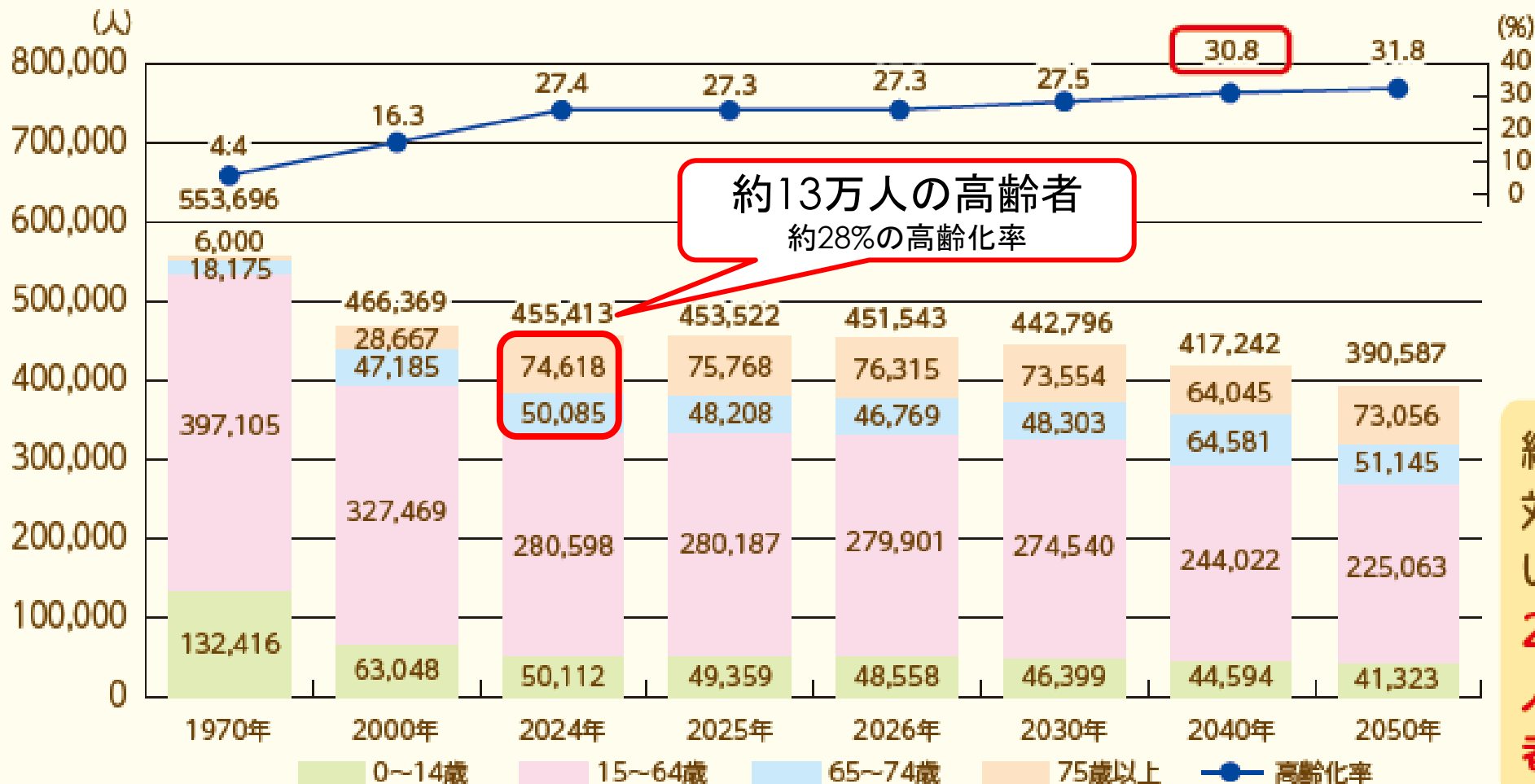
→ 自動車を

持たなくてよい

尼崎市の高齢者人口

尼崎市の“これから”

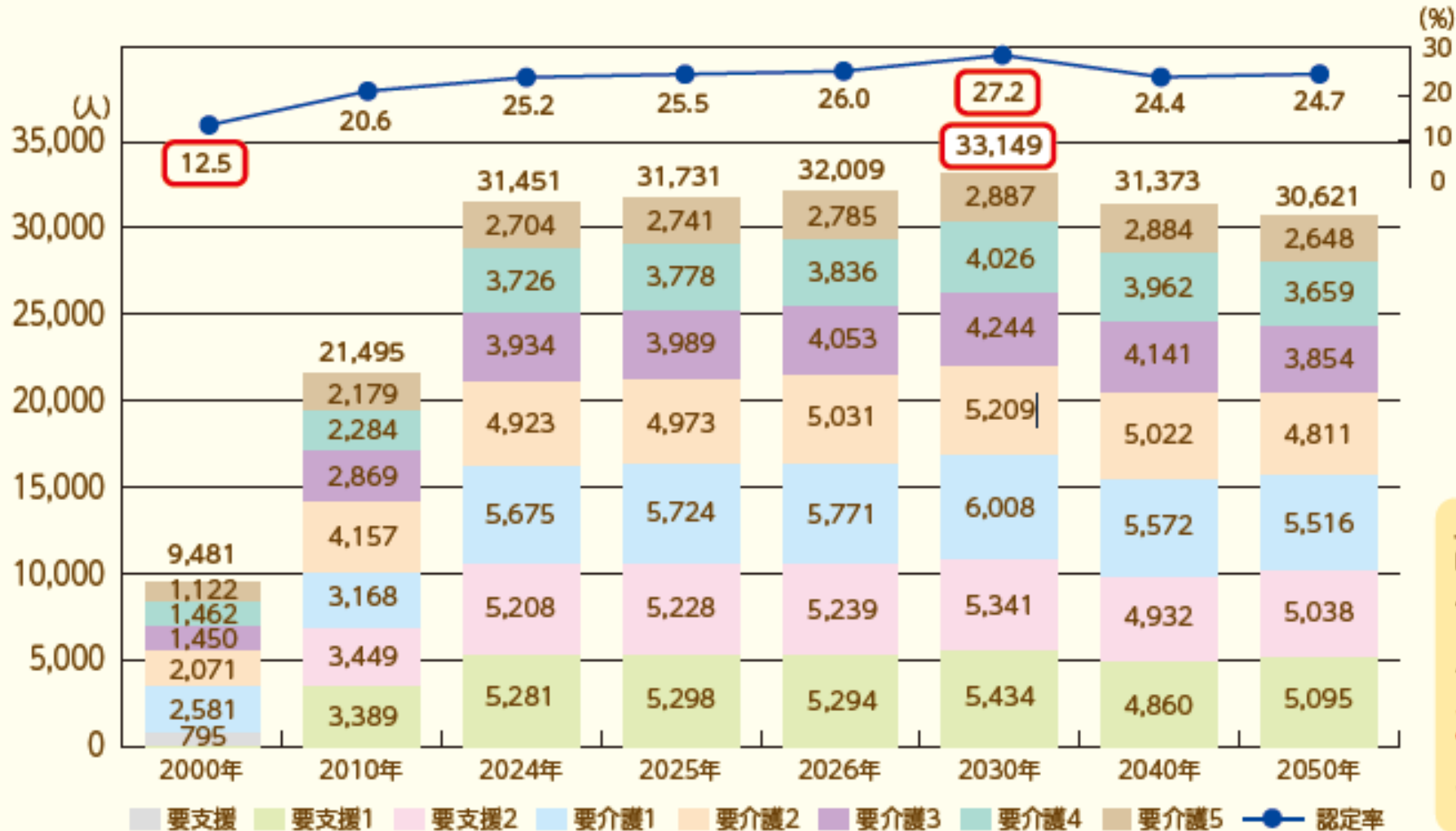
高齢者数・高齢化率の推計



総人口が減少するのに対し、高齢者数は横ばい傾向となっており、**2040年には人口の3割以上が高齢者となる見込みです。**

尼崎市の高齢者人口

要支援・要介護認定者数の推計



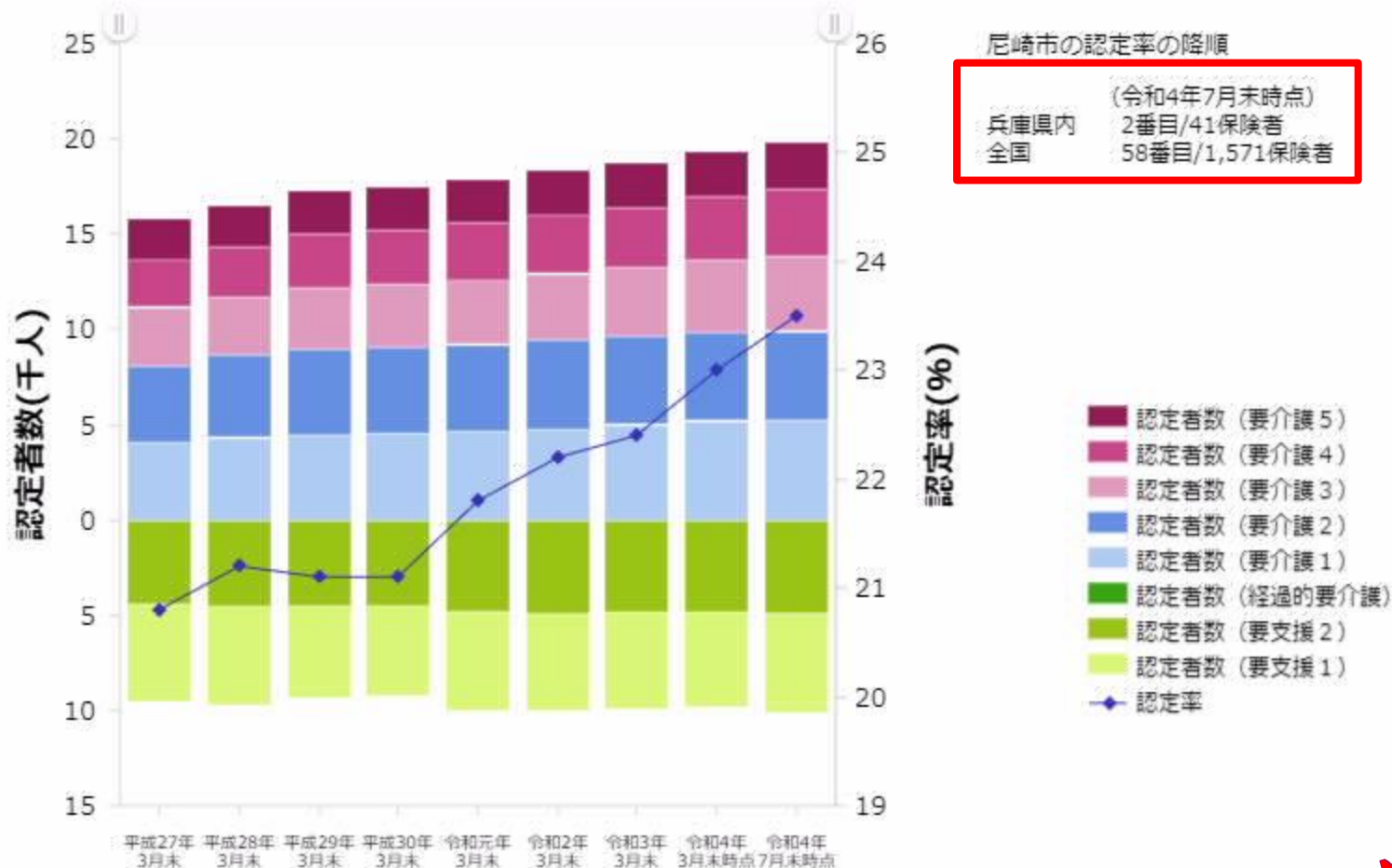
高齢者の認定率は4人に1人以上が続きそうだね!!



高齢者数の増減に合わせて認定者数も増減するものの、
2030年までは増加傾向となる見込みです。

尼崎市の高齢化から見る課題

尼崎市の要介護（要支援）認定者数、要介護（要支援）認定率の推移



兵庫県内でも認定率が高く、必要な方に必要なサービスが行き届いていると言える一方で、介護予防の取組に課題があるとも言える。

介護保険料負担の増加

今後、超高齢化社会が進展する中で、介護予防・フレイル対策に資する取組を充実させる必要があるとともに、高齢者一人ひとりが、尼崎市で、「生き生き」と生活してもらえる取組を実施していく必要がある。

体操

高齢者
サロン

New!!

「はたらく」といったことをキーワードとした
集いの場の構築

(出典) 平成26年度から令和2年度：厚生労働省「介護保険事業状況報告(年報)」、令和3年度：「介護保険事業状況報告(3月月報)」、令和4年度：直近の「介護保険事業状況報告(月報)」

(出典) 見える化システム

「はたらく」といった通いの場の構築①

実は、尼崎市では、昭和57年からシルバー人材センターへの委託事業（後に指定管理者）として、高齢者の就労的活動を行える場である「老人福祉工場」を運営し、内職作業等を実施してきた。

事業開始当時は、利用者が多かったが、グローバル化社会が進むにつれて、市内の内職作業も減っていったことと、シルバー人材センターが事業主体となることで、シルバー人材センターの会員しか利用できず、利用者の広がりを見せないという課題があった。



老人福祉工場



「はたらく」といった通いの場の構築②

老人福祉工場
に来ている
高齢者は、
介護認定を受
けていない

地域で有償ボ
ランティアをし
ている高齢者
は、元気で生き
生きしている

利用者のほと
んどは、お金
のためではなく、
「はたらく」とい
うことに意味を
持ってきている

特に、男性高
齢者は体操等
の集いの場
に行きたがらない

これまで実施してきた「老人福祉工場」の事業については、利用者の広がりを見せないといった課題はあるものの、ある意味、先進的な取組をしていたのではないか。

市が把握していないだけで、地域の高齢者のニーズがあるのではないか。

もっと多くの高齢者などに「老人福祉工場」を利用してもらえるよう事業転換をしよう。

「はたらく」といった通いの場の構築③

～超高齢化社会に対応した新しい介護予防・フレイル対策の創出を目指して～

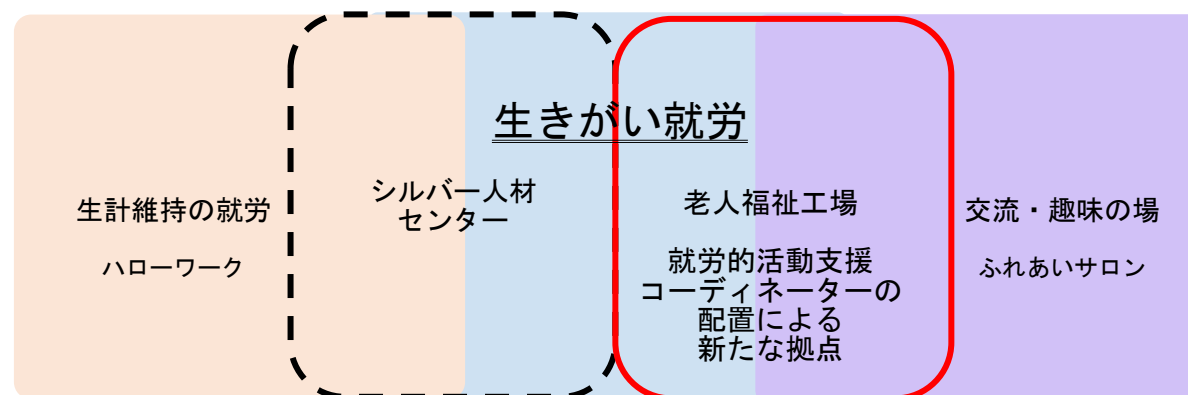
【転換のポイント】

- ①生計維持のための就労が出来なくなっても、自分の出来る範囲で働きたい人が多い。
- ②男性高齢者においては、地域の集いの場に参加しない人も多い。
- ③地域の住民主体の支え合い活動の担い手不足が課題である。

【取組の方向性】

- ①高齢者に無理なく、働いてもらえる社会構造を構築すれば、介護予防・フレイル対策に資する取組につながるとともに、地域社会の課題解決にもつながる。⇒ **生きがい就労の創出**
- ②生きがい就労を市内に広げるための拠点として老人福祉工場を機能転換する。⇒ **名称なども検討**

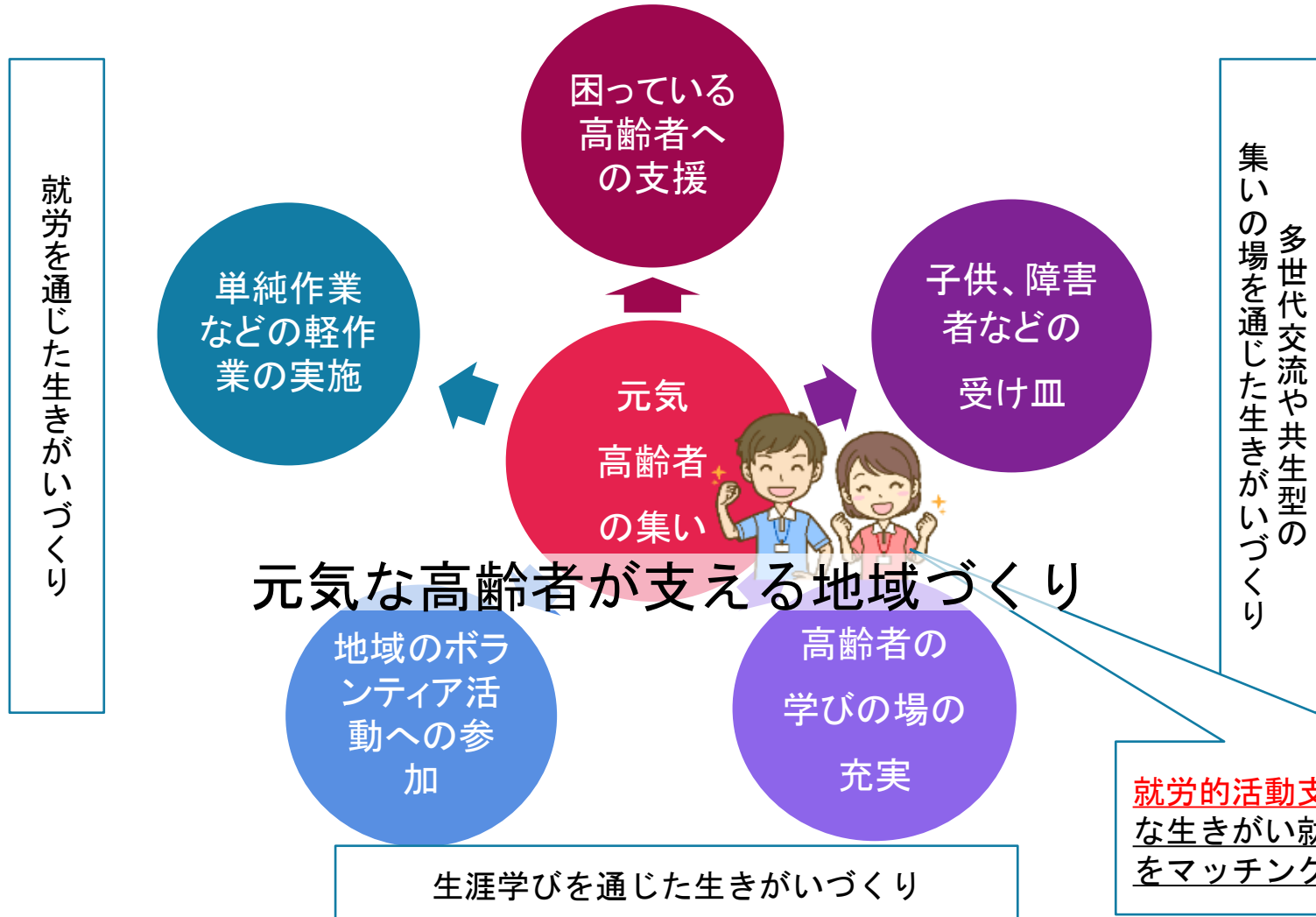
イメージ図



「はたらく」といった通いの場の構築④

事業転換の全体像

社会貢献（就労）を通じた生きがいづくり

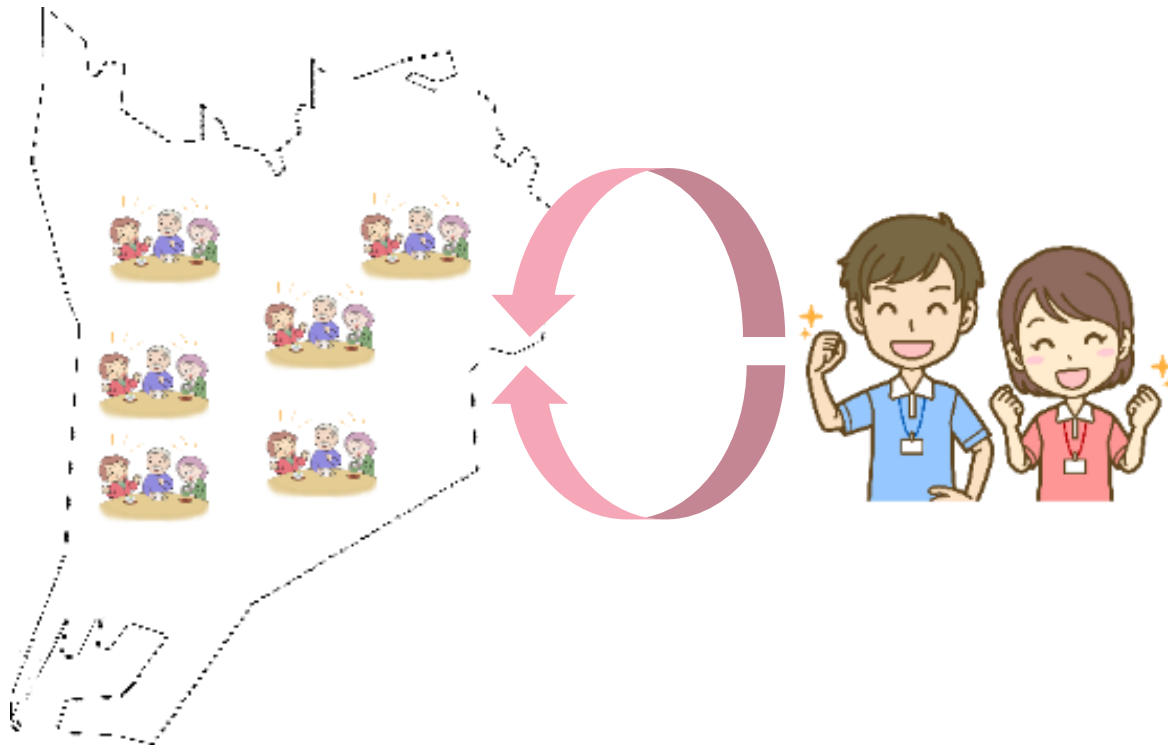


「はたらく」といった通いの場の構築⑤

～介護予防・フレイル対策として生きがい就労を広げるための就労的活動支援コーディネーターの配置～

生きがい就労を地域に広げる

～地域に出向く就労的活動支援コーディネーターの配置～



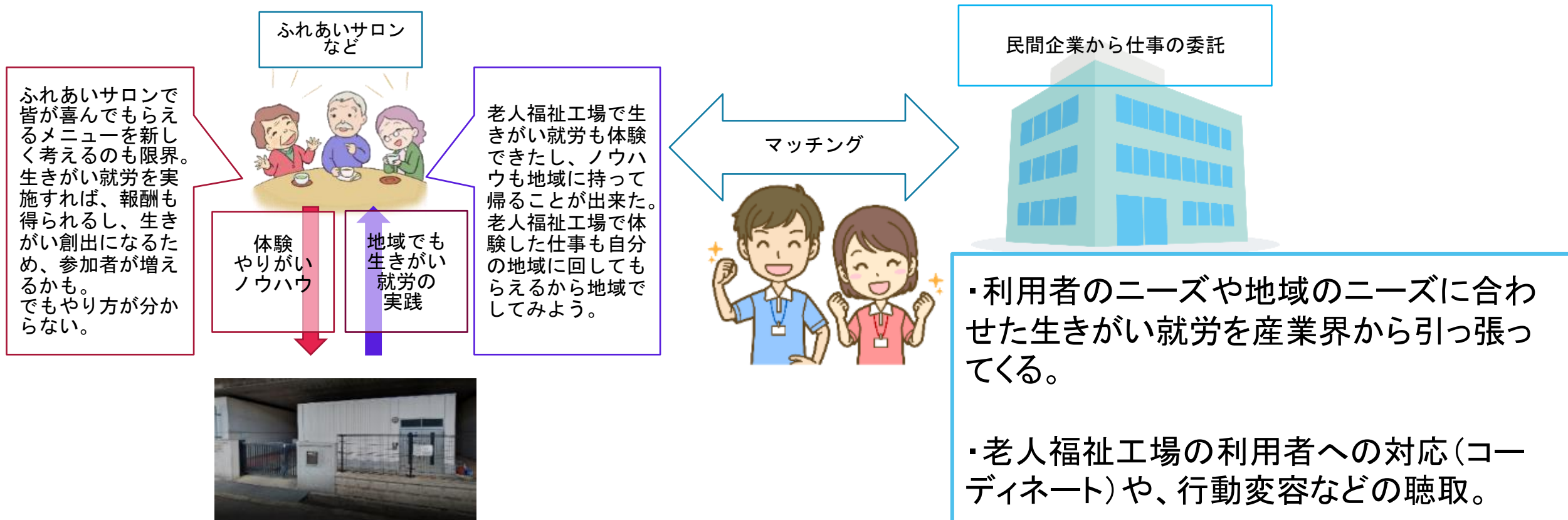
- ・地域包括支援センターや市社協等の関係団体、地域の高齢者の集いに出向き、地域のニーズを把握するとともに、生きがい就労事業の周知・啓発を実施する。
- ・生きがい就労を地域等で実施できるようコーディネートを行う。

「はたらく」といった通いの場の構築⑥

～介護予防・フレイル対策として生きがい就労を広げるための就労的活動支援コーディネーターの配置～

生きがい就労を地域で実践できる仕組みづくり

～多様な生きがい就労を用意する就労的活動支援コーディネーターの配置～



「はたらく」といった通いの場の構築⑦

～介護予防・フレイル対策として生きがい就労を広げるための就労的活動支援コーディネーターの配置～

今後、展開が期待できる取組

～これまでの経験を地域のために活かす機会の創出～

・地域の支え合い活動・ボランティアへの参加・立ち上げ
市社協や地域課と連携し、生きがい就労（介護予防・フレイル対策）の一環として、これまで培ってきた経験などを活かし、自分が住み慣れた地域の役に立ちたいと思う高齢者が、支え合い活動などの有償ボランティアへ参加できるよう、就労的活動支援コーディネーターが地域活動と高齢者とのつなぎ支援を実施する。また、地域活動へ参加した高齢者が自ら活動団体を立ち上げる際の支援も実施する。



～定年退職後の高齢者の起業に係る相談支援の実施～

・高齢者同士が運営する企業の立ち上げに係る相談支援
生きがい就労（介護予防・フレイル対策）の一環として、定年退職後の高齢者が自分のやりたい仕事、自分ができる範囲で出来る仕事をするために、高齢者が企業などの立ち上げを行う際に、就労的活動支援コーディネーターが相談支援を実施し、関係機関へのつなぎ支援を行う。

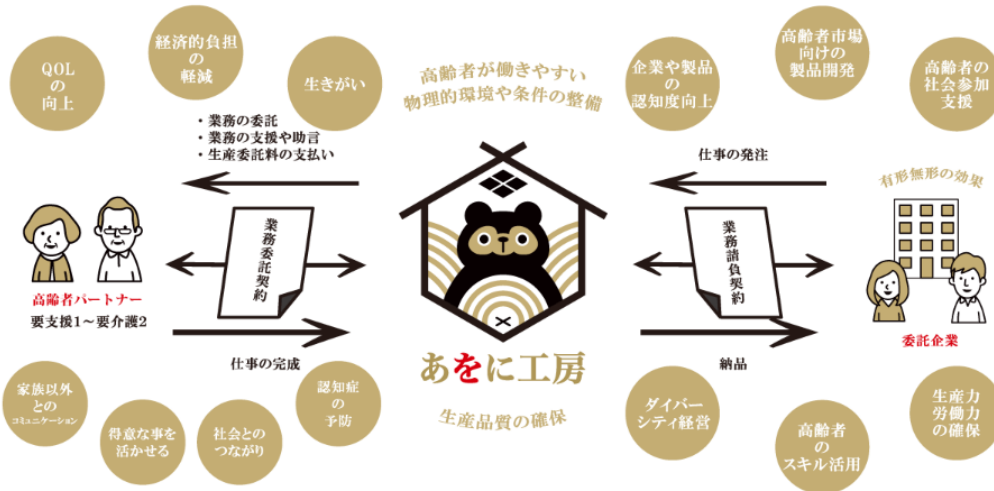


～認知症の方（若年性含む）への生きがい就労の実施～

・認知症になっても就労できる体制づくり
就労的活動支援コーディネーターが多様な生きがい就労メニューを用意する中で、認知症（若年性含む）の方でも出来る就労をコーディネートする。認知症カフェでの実施など


転換後の事業形態

お仕事委託の流れ《高齢者就労支援事業》



奈良県にあるサービス付き高齢者向け住宅で、高齢者就労支援を実施するとともに、障害者の就労支援を手掛ける
あをに工房株式会社



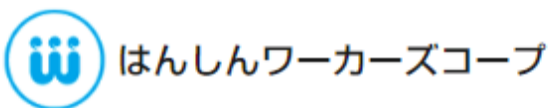
 **はんしんワーカーズコープ**

尼崎市で、介護事業所や児童デイサービス、生活困窮者(生活保護受給者)への就労準備事業の受託に加え、地域食堂や商店街の活性化などを行っている

労働者協同組合はんしんワーカーズコープ

共同事業体として就労的活動支援コーディネーターを受託

労働者協同組合はんしんワーカーズコープの取組



はんしん
ワーカーズコープ

はたらくを、もっとたのしく
共創する地域の実現



協同の力で働く人が主人公に！

介護事業

児童デイサービス

生活支援事業

就労支援事業

高齢者生きがい就労事業

Mission

これまでの社会は利益を追求する中で、労働が商品ようになってしまったのではないかと。人生の大半を過ごす「はたらく」という営みはもっと主体的で創造的なはず。わたしたちは一人ひとりが主体的になる協同労働という働き方で、地域にある困りごとを解決する仕事を創り出します。はたらく仲間、利用者、地域市民と協同し社会から困りごとを一つでも減らし持続可能な社会を目指します。

労働者協同組合はんしんワーカーズコープの取組



はんしんワーカーズコープ

Value

- | | |
|---------------|----------------|
| 1.対話の探求 | 5.はたらくを楽しく、面白く |
| 2.基礎作りと改善思考 | 6.利用者への姿勢 |
| 3.魅力の発見と価値づくり | 7.仕事づくり×地域づくり |
| 4.チャレンジと向上心 | 8.みんなが主人公 |

就労的活動支援コーディネーターの取組とマッチ

生活支援体制整備事業（法第115条の45第2項第5号）就労的活動支援コーディネーター

（ア）活動内容

就労的活動の場を提供できる民間企業・団体等と就労的活動の取組を実施したい事業者等とをマッチングし、高齢者個人の特性や希望に合った活動をコーディネートすることにより、役割がある形での高齢者の社会参加等を促進する。

（イ）配置

配置先や市町村ごとの配置人数等は限定せず、地域の実情に応じた多様な配置を可能とする。

（ウ）資格・要件

地域の産業に精通している者又は中間支援を行う団体等であって、地域でコーディネート機能を適切に担うことができる者とする。このように、特定の資格要件は定めるものでないが、生涯現役社会の実現や市民活動への理解があり、多様な理念をもつ地域のサービス提供主体や民間企業と連絡調整できる立場の者が望ましい。

高齢者生きがい就労事業の具体的な取組

地域の困りごと（生活支援） × 高齢者の介護予防

就労的活動① はたらくらボでの取組

施設の中で就労的活動（内職的作業）を確保し利用者とマッチングする

就労的活動② 地域の中に生きがい就労をつくる取組

高齢者の困り事や課題（主に生活支援）に対して、高齢者自身が担い手となって支え合う仕組みをつくる事をコーディネートする

就労的活動① はたらくラボでの取組



就労的活動① はたらくラボでの取組

老人福祉工場(正式名称)



はたらくラボ(愛称)

「はたらく」といった喜び・生きがいを創出しつづけるために、いつまでの探究していくといった意味を込めて
「はたらく」× ラボラトリー(研究所)
 はたらくラボと愛称を命名

利用者数の増加

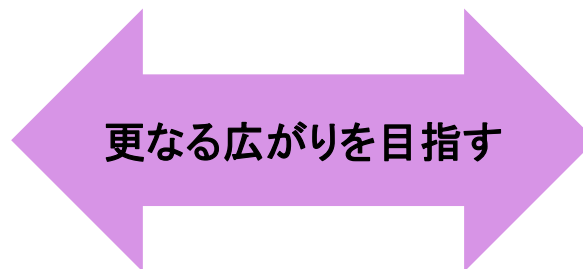
事業転換前

事業転換後

約25名



113名



更なる広がりを目指す

幅広い年代の利用者の受入

最年少

最高齢

60歳前半

87歳

※令和4年度の最高齢 96歳

就労的活動① はたらくラボでの取組

就労的活動(内職作業など)の増

事業転換前

事業転換後

3社



10社

利用者の声

- ・これまでは内職作業のみ実施していたが、新しい取組として、お弁当作りや防水シートにミシン縫いなどの仕事が増えて、刺激的だ。
- ・お弁当づくりを実施した際に、95歳の女性高齢者が「次はもっと効率よくできるようにミーティングしよう」と声をあげ、話し合う、考えるといった機会が増えた。
- ・やり慣れた作業以外をするときには、覚えたりすることも大変だが、やりがいがある。



就労的活動① はたらくラボでの取組

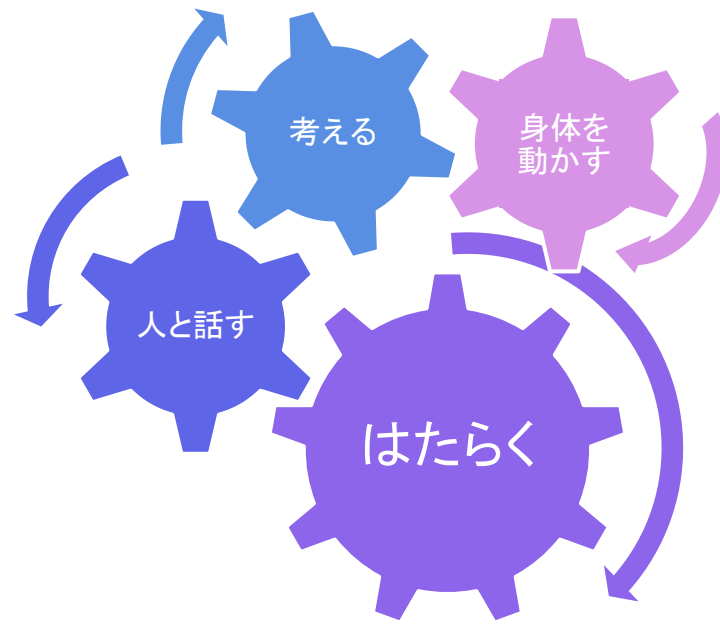
• 利用者の声

自宅にいるよりも、仕事に来る方が、生き生きする。

行く場所があると、家の片づけを早く終わらせたり、化粧もして嬉しくなる。
良い人ばかりで環境がよく、同じ思いで来ているため話しが合う。

仕事をした分よく寝られる。

地域の体操の場に行きたくないが、ここなら来たい。



生きがい創出

10月2日の神戸新聞にも掲載



就労的活動① はたらくラボでの取組

就労的活動以外の取組

セミナー・イベントの実施

はたらくラボでの地域食堂の開催



・「老人福祉工場」を知らない人も沢山いることから、まずは「知ってもらおう」ということを目的に、利用者も参加した地域食堂を開催した。

R4実績: 大人19名、子ども24名、計39名が参加

0円お譲り交換会「ぐるり」開催



・「老人福祉工場」を知らない人も沢山いることから、まずは「知ってもらおう」ということを目的に0円お譲り交換会「ぐるり」を開催した。利用者もイベントのスタッフとして参加した。

R4実績: 大人46名、子供19名、計65名が参加

「認知症予防塾」



・市内の薬局の協力により、「認知症予防塾」を開催し、脳トレゲームなどを実施することで、認知症予防の大切さを周知した。

就労的活動① はたらくラボでの取組

学生との交流の取組

関西国際大学の学生ボランティアの受入



・市内にある大学の学生ボランティアの受入れを行い、学生と交流することで、「若い子がいるだけで場が明るくなる」「孫と同じ年齢でかわいらしい」という声があった。

中学生の職場体験の受入



・市内中学校の生徒の職場体験先として受入れを実施し、内職作業を高齢者（利用者）から教えてもらう取組を実施したところ、孫ぐらいの子どもと触れ合うことが出来て良かったとの利用者からの声があった。

就労準備事業の対象者の受入れ

就労準備事業の対象者の受入れ



・高齢者側は、「お節介をやける」＝「新たな生きがい」への期待、就労準備対象者もその優しさに触れることによる居場所づくりと自信創出（高齢者よりも作業ができる）を目的として、モデル的に5人の受け入れを行った。中には、担当の生活保護ケースワーカーから、ほとんど話すことがなく、ひきこもりがちだった人が、この作業に参加しているときは、非常に積極的に作業を行い、高齢者と話すことも増えたといったケースも見られた。

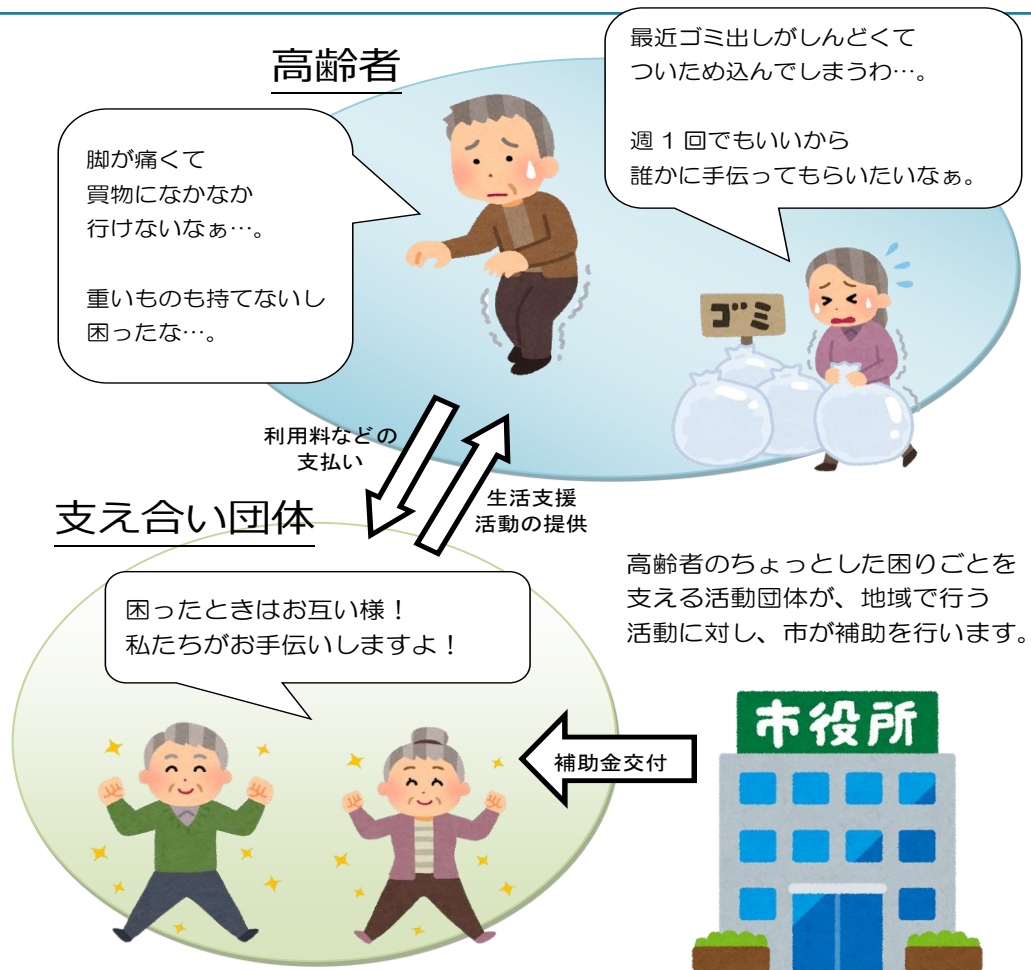
地域に生きがい就労を広げるためには

- ① ボランティア（無償）、シルバー人材センター（最賃以上）だけではない、高齢期における活動のひとつとして就労的活動（有償）を創出
- ② 地域の中の困りごとをつかんでいる行政・社協と連携して取り組む
- ③ 課題は、地域を支える担い手の不足。担い手の発掘と養成が必要
- ④ 今あるサロンや地域団体に就労的活動をメニューとして導入してもらう
- ⑤ 支え合い団体の設立や活動団体への紹介を目的に担い手養成講座を実施する

就労的活動② 地域の中に生きがい就労をつくる取組

尼崎市訪問型支え合い活動補助事業について

高齢になると、加齢による足腰の衰えなどにより、これまで自分だけでできていたことが難しくなることがあります。その中でも、介護保険サービスで頼むほどではない「軽易な」日常生活での困りごと（ちょっとした困りごと）を支援する地域の活動団体を市が支援します。



【①主な対象者】

・要支援認定者等（要支援1・2または事業対象者）

【②対象とすることが出来る人】

・要介護1～5の者・65歳以上の虚弱な高齢者

【活動内容】

- (1) 買物（日用品・食材等）
- (2) ごみ捨て（家庭ごみ・粗大ごみ等）
- (3) 掃除（掃除機がけ・掃き掃除等）
- (4) 大掃除（換気扇やレンジフードの掃除等）
- (5) 洗濯（洗濯物を干す・取り込む等）
- (6) 電球交換
- (7) 庭木の手入れ
- (8) 家具の移動
- (9) その他（代筆・代読等）

【補助単価】

1回あたり 1,000円まで（上限）

1,500円から利用者負担額を差し引いた額（1,000円を超える場合は1,000円）が、市補助額の上限

市内で補助を受けながら活動をされている団体は11団体

まちづくり・仕事おこしセミナーについて①

1. 実施の背景

- 介護予防やフレイル対策として「はたらく」メニューの創出が必要
- 総合事業の担い手不足の解消に向けて

2. 共催・協力団体（協議体の取り組みとして実施）

- 社協、就労的活動支援コーディネーター、地域包括、尼崎市高齢介護課、重層的支援推進担当、地域団体など

3. 対象者

- 市内在住の方で、ご興味のある方（あえて高齢者に絞らなかった）

まちづくり・仕事おこしセミナーについて②

1. 第1回「地域の困りごとってなんだろう？」

- 全国、尼崎市内の事例紹介
- 自分またはお住まいの地域でどんな困りごとがあるか？のグループワーク

2. 第2回「自分にできること・やりたいこと・必要なこと」

- できる・やりたい・あったらいいなの機能についてグループワーク

3. 第3回「計画づくりシミュレーション」

- 1回・2回で出されたアイデアを具体的な計画に落とし込む

まちづくり・仕事おこしセミナーについて③



高齢者が7割
男性6名、女性9名

毎回約15名が参加



まちづくり・仕事おこしセミナーについて④

1. 講座で出た意見

- 地域のつながりがなくなっている
- 高齢者や子供が集まれる居場所がほしい
- 通院や買い物など一緒に行ってあげるサービスがあれば
- 近所でゴミ屋敷や多頭飼育が問題となっている

2. 参加者の感想

- 地域に必要なものをどのように創るのか興味があった。
- 自分にできることがあれば空いてる時間で貢献したい。
- これまでの経験を活かして貢献したい。
- ボランティアよりお金が発生したほうがサービスしやすい

支え合い団体立ち上げに向けたアフターミーティング

1. ミーティング内容

- 参加者の中から、60歳以上の7名が団体立ち上げを希望
- 2023年5月より、毎月1～2回ミーティングを実施
- 役割の選定（会長・事務局等）
- 支援メニュー、料金、対象者、対象地域、会則などみんなで作成
- 支援の手引・利用の手引・事業チラシの作成中
- 2024年7月立ち上げ予定



まちづくり・仕事おこしセミナー「就労支援版」

就労支援の取り組みとして

- 就労準備支援事業利用者約20名が参加し講座受講（計3回）
- 実践編として行政からゴミ屋敷案件を紹介され活動実施
- アフターミーティングで支え合い活動団体設立の意思確認
- 生活支援サポーター養成講座（緩和型訪問A従事者）に14名が参加
- 行政からは、たくさん案件があるので連携したいと依頼あり




協同労働（労協）の仕組みが地域で果たす役割

- 自治会の結集が難しくなりつつある中で新たな支援機能の創出が必要
- その仕掛けや仕組みは行政が中心となって取り組まないと民間では難しい
- 協同労働的な運営で責任を分散し、ゆるく長く楽しく役割を創出
- 高齢者の予防的取り組みだけでなく、主婦層や就職困難者の新たな働き方としての検討
- 支え合い団体同士のネットワークを創り広域に支援の網を広げる
- 多様な活動（無償・有償）、メニュー（サロン・地域しごと等）を創出

市から見た労働者協同組合の強み



 はんしんワーカーズコープ

尼崎市で、介護事業所や児童デイサービス、生活困窮者（生活保護受給者）への就労準備事業の受託に加え、地域食堂や商店街の活性化などを行っている

労働者協同組合 はんしんワーカーズコープ

労働者協同組合法

【第一条】 この法律は、各人が生活との調和を保ちつつその意欲及び能力に応じて就労する機会が必ずしも十分に確保されていない現状等を踏まえ、組合員が出資し、それぞれの意見を反映して組合の事業が行われ、及び組合員自らが事業に従事することを基本原理とする組織に関し、設立、管理その他必要な事項を定めること等により、多様な就労の機会を創出することを促進するとともに、当該組織を通じて地域における多様な需要に応じた事業が行われることを促進し、もって持続可能で活力ある地域社会の実現に資することを目的とする。

・各人が生活との調和を保ちつつその意欲及び能力に応じて就労する機会が必ずしも十分に確保されていない現状等
⇒特に後期高齢者の就労的活動の機会が少ないが「はたらきたい」と思っている高齢者はいる。

・多様な就労の機会を創出することを促進するとともに、当該組織を通じて地域における多様な需要に応じた事業が行われることを促進し、もって持続可能で活力ある地域社会の実現に資する
⇒まさしく就労的活動支援コーディネーターの活動と同じ目的

事業転換後の成果（老人福祉工場以外での取組）

生活支援コーディネーター

地域包括支援センター

連携

就労的活動支援
コーディネーター

地域の高齢者の集いの場での生きがい就労の実施



・現在ふれあいサロンや百歳体操、認知症カフェ、訪問型支え合い活動を実施している団体が、活動の活性化を図ることを目的として、生きがい就労を試験的に実施することとなった。

地域課題
個別支援の課題

「はたらく」という
要素の取り入れ
普及・啓発

地域活動
(はたらく)
の
創出

地域活動（訪問型サービスB）の立ち上げに向けた取組



・地域活動が「しごと」になるといったキーワードをテーマに、地域で地域活動の興味がある人を集め、地域課題を共有し、自分ができること、やりたいことを話しあい、集まったメンバーで、支え合い活動の立ち上げを目指している。

Point!!

労働者協同組合の
腕の見せ所

事業転換後の成果（老人福祉工場以外での取組）

就労的活動支援コーディネーター

地域の高齢者の集いの場での生きがい就労の実施



地域活動（訪問型サービスB）の立ち上げに向けた取組



地域活動
（はたらく）
の
創出

高齢者の声（ニーズ）

何歳になっても、できるだけ働きたい

でも、責任は負いたくないし、
一人でするのも嫌

強いリーダーが引っ張っていくのではなく、
みんなで決めながらはたらきたい

高齢者のニーズにあわせた
「はたらく」をつくる

協同労働のような「はたらく」の提案

意見反映を重視した組織（団体）づくりの
ノウハウの伝達

Point!!!

労働者協同組合の
腕の見せ所

労働者協同組合の主な特色

多様な就労機会の創出

意見反映の重視

地域における多様な需要に
応じた事業を行い、
持続可能で活力ある
地域社会の実現

事業転換後の成果（地域の反応）

地域包括支援センターの声

- ・認知症の人を支える取組として、その人が集える場所というのは、今のところ認知症カフェしか無いが、カフェ以外で就労的活動ができる場所として、認知症の人を受け入れることができるなら、その人の残存能力の維持と尊厳の保持につながるのではないか。
- ・引きこもりがちの男性高齢者に対し、通いの場へ行くよう案内しても、体操をするといった目的では行きたがらない。しかし、「はたらく」といったキーワードであれば、参加してもらえる人が多いのではないか。
- ・8050の50の人も、この事業に参加することが出来ればありがたい。
- ・実際に、引きこもりの高齢者にこの事業を紹介したところ、この事業なら参加したいという高齢者がいた。

社会福祉協議会 （生活支援コーディネーター）の声

- ・「はたらく」といったキーワードがきっかけとなって、地域活動の立ち上げや引きこもりがちの高齢者への参加支援に寄与するのではないか。
- ・高齢者だけでなく、多世代交流の場としての機能を持つと高齢者の生きがいにも繋がるのではないか。
- ・生活支援コーディネーター（社協）とは違う民間事業者に就労的活動支援コーディネーターを担ってもらうことで、それぞれの強みを活かして活動をすることが出来る。
- ・地域で生きがい就労を実施できるよう、就労的活動支援コーディネーターと一緒に動いていきたい。

地域の集いの場の声

- ・男性高齢者は、本当に集いの場へ参加しないため、「はたらく」といったキーワードを用いた集いの場であれば、呼び水になるかもしれない。
- ・市内に老人福祉工場の2箇所だけでは、通うことが出来ない人も沢山いるため、各地域で生きがい就労を実施している場所を作ってほしい。
- ・75歳以上になると仕事をしたい気持ちがあっても仕事がないため、自分が高齢者なんだと社会から取り残された気持ちになることがあるが、このような場所を作ってもらえれば、いつまでも若い気持ちでいられるとともに、まだ誰かの役に立てる（活躍できる）という自信にもなる。

市報やチラシで事業広報をおこなったところ……。



一週間で**70件**もの高齢者からの問い合わせがあり、ほとんどが利用希望者

ニーズ

大

事業転換後の展望

- 「はたらく」といったことをキーワードとしてまちづくりをしなければ、ボランティアというワードでは、担い手創出に限界がある。
- 内職作業だけでなく、訪問型サービスBなどを実施する団体の立ち上げにもつなげていきたい。
- より虚弱な高齢者に参加してもらうには、オリジナル商品などを開発し、作業期限などが無いものを用意する必要もある。
- 今後は、通所介護や介護施設での生きがい就労（内職作業など）も実施したいというニーズも増えていくのではないか。
- 「はたらく」ということは無限大。人生の最期まで誇りを持てる事業を目指し、高齢者は支えられるのではなく、支えるのが当たり前の世の中に。
- 就労的活動支援コーディネーターの役割が増大

以上が尼崎市の就労的活動支援コーディネーター等の説明です。
ご清聴ありがとうございました。



尼崎市シティプロモーションマスコット あまっこ

尼崎市福祉局福祉部高齢介護課

竹中 智郁

労働者協同組合はんしんワーカーズコープ

馬場 義竜